子育て世代包括支援センター（日本版ネウボラ）との連携によるアートを取り入れた予防的教育

正保正恵・渋谷清・山内加奈子・渡邉真帆・弘田陽介・住吉悦子・佐藤晴恵・河村桂子

１．背景

福山市においても，子育て世代包括支援センターと合わせて，2021 年度から「市区町村子ども家庭総合支援拠点」が動いており，新たな体制の中で，予防を含めた教育が求められている。妊娠カップル側からは，妊娠・出産・子育てという不安な時間，様々なリスクや社会的な圧力の中で，安心・安全を見出したいといったニーズがあり，2021 年度より本学においてHP からリンクする形で YouTube を通した取り組みを始めている。

２．目的と方法

2022 年度は拠点と連携しながら妊娠期の妊婦（とそのパートナー）に対してアート（造形・製作・ボディワーク）など（メンタルヘルス）のワークショップを通した予防的な学びを対面で行うプログラムを実施し，その効果をみる。ここでアートとは，「自身の心と体の状態，日常生活をより見つめることができる技術」と広く捉え，生活を支えるアートには，物語性・聴覚性，触覚性，視覚性など五感に働きかけることができる。

３．結果と考察

ネウボラ推進課にてチラシを配布していただき，本学教育研究交流センター公開講座として 2022 年秋に「これからの子育てに安心・安全を感じるためのアートを活かしたワークショップ」を企画・実施した。具体的な内容は，以下の表のとおりである。

日時		10:00-11:00		11:10-12:10	
月日	曜日	ワークショップ	担当	ワークショップ	担当
9月3日	土	自己紹介 ＆おしゃべりタイム	正保・ 山内・渡邉	体が落ち着くボディワーク	弘田
9月10日	土	紙コップを使った パペットづくり	渋谷	イラッとする時の対処法	山内
9月24日	日	赤ちゃんを迎える 環境づくりのヒント	渡邉	心が落ち着く背守り刺繍	正保
10月1日	土	絵本の読み聞かせのコツ	栗林	振返り＆おしゃべりタイム	正保・ 山内・渡邉

コロナ禍での対面開催ということで参加者が少なかったが，インタビューの結果，講座への評価は「良かった」。妊娠生活や子育てに直接的な内容と共に，アートを通した WS が気分転換になったという。大学と地域の行政が連携した異分野グループよるパイロット的 WS が The AHRC Cultural Value Project の研究成果に基づく「個人の内省」，「アイデンティティ」，「主観的幸福感」の効果をもたらし，地域の妊娠中の女性及び家族支援を行っていく意味が見出された。なお，本研究はアートミーツケア学会 2022 年度大会にて成果発表を行った。

引用・参考文献

・Geoffrey Crossick, Patrycja Kaszynska (2022)『芸術文化の価値とは何かー個人や社会にもたらす変化とその評価』水曜社

・東京藝術大学 Diversity on the Arts プロジェクト，坂口恭平他(2022)『ケアとアートの教室』左右社